

# 10月 総会は母校で 31日 将軍山祭に会せて

本年度第一回理事会で決る 6月12日

先ず 6月4日の常任理事会で審議し 監事が会計監査した前年度の決算（本报2・3頁参照）を慎重に検討し承認しました。次に本年度の予算について検討し承認しました。

総会については 追手門学院校友会山桜会の方が未確定であることから 本年は 将軍山祭（大学祭）の行われる期間の10月31日（日曜日）に 母校を開くことにしました。

なお 7月4日(日)午前10時から母校大学の研究棟6階にある小会議室で本年度総会ならびに会員褒賞・表彰規程について検討する第2回理事会が開かれる予定になっています。

――日頃何かと母校の為に御尽力賜わりました卒業生一人ひとりの幸福と繁栄のために誠心誠意の御活躍に対し衷心より感謝いたします。昨年12月19日の新理事會の決議を今回再確認いたしましたので(以下略)△本底1頁所理事會会報告の文を参照して下さ△

△本紙1頁新理事會報告のIVを参照して下さい△

長として抱負をもつことなし 退  
（5 終）

將軍山會報

発行者  
茨木市西安威2-1-15  
追手門学院大学校友会  
将軍山会  
0726-43-5421 内線337  
編集者  
副会長 蟻柴 潤一  
© 1982

## 新理事會報告

○ 短信・近況・思い出・想うこと等ご多忙でしょうが  
お寄せ下さい。

○ 住所変更のときは ハガキで至急お知らせ下さい。

1条) を追手門学院大学同窓会 将軍山会から追手門学院大学校友会 将軍山会と改めることにいたしました。

新名称は、昭和57年1月1日から用いることにいたしました。ただし、会計に関する伝票・書類等は56年度末(昭和57年3月31日)まで現行通りとしました。また、本会の印鑑についても、新印鑑は57年2月中旬以降に改めることとしました。

### III 補正予算の件

56年度補正予算案を審議の上、諒承確認しました。

### IV 追手門学院校友会山桜会との関係の件

1 本会は、協力共調の関係を維持することを確認しました。

2 新役員の中から、次の二氏を追手門学院校友会山桜会の副会長として推挙することとし、追



待させるところで、この小説は終っています。滅びで結ぶのは築なことです。  
ですが、あなたはそれをしなかつた。さまざまの門をくぐって、明日もまた生きてゆくところで筆をおいています。生きた秋の山をしっかりと見据えたあなたの眼に感心いたしました。ところで、亜紀が靖高と十一年ぶりに蔵王で会う最初の場面設定は、非常に効果的だが、また大胆でありますね。

宮本 あの場面を最初にもってことないと、小説として成立しないんではないかと……。ギリギリのところだと思います。成立というのは、技法上の問題ですが。

水上 ギリギリのところを、ぐつと掘えこんで、ねじ伏せた。東北は二人の新婚旅行の地ですよね。そこへもう一度偶然性をもってきたのは、まことに大胆な発想です。

宮本 最初の一行為が浮んでいただけで、羅針盤もなしに船出したようなものですから。

水上 だが、あなたは必死に絵具をアリティとリズムを出しています。芸の力だ。

宮本 そんなところが、宮本の小説は“新派悲劇”だ、といわれる所以しか言いようのない“新派悲劇”で泣くときがあるんですよ。私はそこにあるあなたの冒險を見るし、資質の一

つが秘められているとも思います。何をいわれたっていいじゃないですか。

宮本 死の認識

小説というのは結局、物語なのだ、と書き始めたときからずっと思ってきました。学問でもなければ宗教でもない。贅沢な心の遊びだと思います。だから私は、物語をいかに織ってゆくかに懸命になるタイプとして、観念を文字に移すことにはできないのです。逆に言えば私は、観念なんかまったく信じてはいるといふこともあります。

水上 藏王のダリア園でたしかにあなたは、自分の生命が或る天体に左右されている不可思議さに酩酊した。本当に自分が死ぬかもしれないと考えたのだ、そのとき。

宮本 そうかもしませんね。死への怖れを感じつつ死ぬこと、感じないまま死ぬこととの間にこそ人生の幸、不幸の分れ目があると。それは非常に大事な点だと思いました。

水上 あなたはそのことを言っていましたね。靖明が死を認識するところ。「私は跡形もなくこの世から姿を消してしまう。けれども、私の命そのものは、自分の背負い込んだ悪と善に包まれながら、決して消滅することなくつづいて行くのだ」ことは宗教的な感じがしますね。

宮本 きわめて危ういところでもあります。かもしれません。書かなくてもいい言葉だと一度は消したのですが、

これを書かなくて何のために『錦繡』を書くんだと氣づきました。小説が壊れることがある、それはそれで仕方がないではないかと。一種の博奕みたいな気持でした。

**水上** この小説で一番苦労されたのは、どこですか。

**宮本** 奥奈店「モーザルト」の焼失場面です。ここで筆が止まってしまいました。押せども引けども、二ヵ月間まったく動きませんでした。そのために、少し精神状態がおかしくなりまして、人と会うと体が震えたり、指がしびれたり、気が狂うんじやないかと本気で恐怖感を抱くようになつたんです。それもかなり強い症状として何日もつづいたものですから、友人の精神科医に診断を受けました。薬も効いたのでしょうか、その医者の言葉でいぶん楽になりましたね。「お前は、この病気を持つてゐるから小説を書けるんだ」そう言われたんです。狂気と正常とのはざまで漂つてなきやあ、小説なんか書けるもんか、とも言われまして、なんとなく肚がすわつてしまつたんです。

**水上** あそこには苦心の跡が見られますね。ちょっとトロッコが止つたという感じ……。

**宮本** 明らかに出て いるわけです。

**水上** しかしそれをよく持ちこたえて、強引にもつてゆかれた。勝沼とういう亜紀の再婚相手を登場させ……。そうするよりほかになかったので、荒技をかけないと、書いていい

作品にこっちがつぶされてしまふ状態にはまりこんでしまって。水上 小説家はみな苦労するんです。そこでものをいうのが、縫い取り職人の技。刺繡してゆくともう戻せない。バランスをとらなくてはいけなくなってくる。宮本 失敗作なら、いっそ大失敗作になりやがれ、そう思いましたね。関西の風土 水上 京都にもいえることですが。西宮や芦屋の喫茶店には、独特的匂いと光線がありますね。松林の中にはぼんとある、なんともいえない景色ですね。「モーツアルト」もそんな一軒で、靖明との離別後、傷心を抱えここに通いつめる亜紀が人生を考えるのにぴたりの場所です。関西に住まれた庄野潤三さんや阪田寛夫さんは、こういう店でコーヒーを飲んでおられたはずです。

舞鶴と移ってゆきますが。宮本 舞鶴の町を歩いたことはありません。十年前、旅行中に駅のホームから町の一画を見ただけですが、自分の精神風土と共に通するものを感じました。ここはおれの町ではないかと。それでぜひ書いてみたかったのです。想像だけで非常に楽しく書けました。

水上 子供のころよく行った軍港の町という記憶があります。この小説では、舞鶴を設定しないと、嵐山や祇園につながらない感じがありますね。

宮本 企んでそういう場所の設定をしたわけではないんですが、書き終って、いま水上さんがおっしゃった意味のようなことを、私自身も感じましたね。

水上 語りということ

宮本 さきほどあなたは「小説は物語だ」と言つたが、「川三部作」の「泥の河」「蟹川」「道頓堀川」に語りというものを強く感じました。『錦繡』はさらに語りの密度が濃いと思います。書簡体のせいか、死とういうモチーフを抱えこんだせいか、三作にも死を見ましたが、灰色を一面に塗つておいてから人物や風景を書き始めるあなたの作法は、今度も変わらない。あなたの語りの原点の一つです。

宮本 料理をするための俎板まないたみたいなのですね。

水上繡『三月、新潮社刊』は、意味の深い題だと思いますが、いつごろ、どういう意図でつけられたのですか。

宮本 学生時代からの友人と藏王に行つたときのことです。工業デザイナーをめざす彼と、駆け出しの文学青年だった私と、それぞれの道で生きてゆける目処がついたら、一週間ぐらいのんびり旅をしようと励ました。数年後、彼が独立して、私も運よく『泥の河』で太宰賞を、『蟹川』で芥川賞をいただき、二人で念願の旅に出ました。

水上 昭和五十三年秋のことですね。

宮本 ええ。ところが、私はその一年ほど前から体調を崩しておりまして、熱が出て疲れやすかったり、瘦せてきたりしていました。そんな折の旅行でして、たまたま待ち合せの上野駅で喀血してしまったのです。でも無二の友人と年の年来の約束でしたから、彼には内緒にしておき、旅

水上 あなたが芥川賞を受賞されたところでしたか、はじめて会ったときの顔色がすぐれず、肺が悪いのではないかと思いました。あの体で蔵王まで行つたんですか。

宮本 旅館に着いてからも、喀血が気になつてまんじりともしませんでした。事情を知らない友人に誘われて、まるで、夜十時ごろ、懐中電灯の明りをたよりに星を見に山に登りました。息が切れ疲れ果て、中腹のダリア園のベンチに仰向けに倒れこんで目を閉じていたんです。しばらくして息切れがおさまってから、ふと目をあけると、満天の星でした。その星には、数の凄さとか美しさとかを超越した淒みがありました。星空を見て突然、おれはこのまま死んでしまうのかもしれないなと思いました。いま死んだら、はたして自分は幸せだったと言えるかな、なんて思つたんです。友人はそちらじゅう走り回つていて、風が気持ちいいとか……。私が寝転んで星を見ていると、あれがもう覺悟で汽車になりました。

底に秘めたつもりのものですが、宇宙と自分とが、間違いなくどこかで深くつながっているのだという気持が、満天のすさまじい星から感じられたのではないかでしょう。翌日、ゴンドラ・リフトから、紅葉の真っ盛りの山々を眺めながら「錦繡」という言葉が浮んできました。

水上 錦繡の縫い取りというのは、日本の山河の美しさを表わす絶妙の言葉ですね。

宮本 その二日間に目にした光景と、人間が心の中に抱いているもの、生命が綾なすさまざまの心象とが、私の中でつながったと言えるかもしれません。星の凄さと、血を吐いて死ぬかもしれないという気持ちと、錦繡という言葉が、一つになってきたんです。その小説がどんな小説になるかまったく分らないままに『錦繡』という題をつけてしまったわけです。その題に沿って、おれは物語を作っていく、と思ったんで、一方では、それまでに死ぬかもしれない、書けるかな、という気

いました。親木には秋には葉を落とし、葉は肥しとなり蒲団となって押面を温め、枯れすがたの木は春まで生き延びるんですね。錦繡という山の一つの景色と、人間が華やぎで燃えている時間とは重なる、と私は思いましたね。赤い蔓木に絡まれていて木々は、この世のしがらみに絡みつかれている人間という感じです。この小説の主人公の靖明は、もう一人の主人公である別れた妻の亜紀をはじめ、由加子、令子に、意図せざる自分の業で出会い、それぞれに絡まれている。靖明が会った人間との燃えですね。その中で彼と彼女らは、明日に向って、自分の心を深くめぐらせる回心の時間を持つわけですか。それに回心へと転じてゆく人間のだが、春に向う縫い取りの時間を、あなたは彼らに持たせた。

は、今後二つの方向に分れてゆくことと、漠然とではあります、考へています。一つは希望、もう一つは虚無。言い換えれば、宗教への志向と無宗教への志向。この二つの道を人間は辿つてゆくのではないかと思ひます。かつて私は結核病棟で、たまたま人との出会いと別れを経験しました。そして何人の死を見てきましたが、そこで行きついた結論は、人間の求めているものは、煎じました。そして何人の死を見てきましたが、そこで行きついた結論は、人間の求めているものは、煎じつめれば希望であり、夢であり、幸福であることです。ところが現代の文学は、それとはまったく逆の方向に進みつつあるのではないかと、どうか。向上してゆこうとしている人間を書きたい、生きてゆこうとして闘っている人間を書きたい、といふうに病床で考えづけました。

文語　喜やうを絶し取る

第三回

大学第一期卒業（文学部英米語学文学科）と水上勉氏との対談「泥の河」に次いで「道頓堀川」がテレビや映画で紹介されていました。また近作「錦繡」も映画化されることが決ったようです。そこで△波▽の対談を、本紙に転載し、もう一度、宮本輝氏を考えてみたいと思いました。

何とか座だとか、あれが天の河だとか、全部教えてくれるんです。その

もありました。

**水上** 「生きていることと、死んで  
いることは、もしかしたら同じこ





右の二つの行事を終えたあと、会員のみなさまによる福引をいたします。当日は、本会報と共に封入しているハガキ抽せん券引換券を必ずお持ち下さい。

こうして一日、校友会将軍山会の会員のみなさまと一緒に、母校に帰って後輩諸君の活動を将軍山祭を通してたのしんでいただきたいと思います。

秋たけなわこの頃、会員のみなさまいかがお過ごしだろうか？さて、本年度の本会の総会は、今月31日(日)に第16回将軍山祭に参加して開催することになりました。当日は午後2時から母校大学の学生会館・大ホールで△初代学長・故・天野利武先生の御肖像画(油彩20号)を大学へ寄贈する式を行います。また、中村秀学長には天野利武先生について話していただくようお願いしております。

▽次いで、本報2・3頁に転載している7月26日の読売新聞「青春紀行」の執筆者・宮本輝氏(本文学部英米語文学科卒業の一期生)に対する式を行います。また、太宰賞・芥川賞受賞作家・宮本輝氏(本名・宮本正仁)氏は10月5日より欧洲のドナウ河沿いに次的小説の取材旅行に出かけています。が30日に帰国。当日には母校を訪れると話していました。

## 会員各位

## 総会の御案内

発行者  
茨木市西安威2-1-15  
追手門学院大学校友会  
将軍山会  
0726-43-5421 内線337  
編集者  
副会長 蟻柴潤一  
© 1982



将軍山会会长 関謙二

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10/28 (木)				◀(丸ビル)				デモンストレーション				
10/29 (金)				◀(国鉄茨木)	◀(鹿島茨木)			(吹奏楽団)				
10/30 (土)		◀	—(体育祭) —	▶								
10/31 (日)				◀(演武祭(学生会館大ホール))	◀(パレード)	◀(素人柔道大会)	◀(柔道室)	◀(前夜祭(第1体育館))				
				◀(ビューティフル・サンデー・プラン)	◀(素人拳法大会)	▶(第3体育室)	▶(第1駐車場)	▶(学生会館・大ホール)				
				◀(チャリティー・バザー)	◀(模擬・展示)							
11/1 (月)				◀(学長杯テニス大会: 主催・硬式庭球クラブ)	◀(映研 映画「キッド」「チャップリンのゴルフ狂時代」)	◀(ダンス・パーティー(第1体育室))	▶(第1体育室)	▶(学生会館・大ホール)	▶(ダンス・パーティー(第1体育室))	▶(学生会館・大ホール)	▶(学生会館・大ホール)	
				◀(無所属・部落研) 映画「夜明けの旗」	◀(チャリティー・バザー(第1駐車場))	◀(模擬・展示)						
11/2 (火)				◀(ESS劇「宝島」)	◀(学生会館大ホール)	◀(無所属 映画・講演(学生会館大ホール))	▶(後夜祭(第1体育室))	▶(世界の人へ「うどん学校」)	▶(盛 善吉氏 岩井好子教諭)	▶(子供ばんど イタチ サマリア)	▶(学生会館大ホール)	
				◀(チャリティー・バザー(第1駐車場))	▶(模擬・展示)							

## 追手門学院大学校友会將軍山会報

## 第1章 名称および所在

第1条 本会は、追手門学院校友会山桜会の大学部会として追手門学院大学校友会將軍山会と称する。

第2条 本会は、事務所を追手門学院大学内に置く。

## 第2章 組織および目的

第3条 本会は、追手門学院大学および大学院出身者とその関係者(教職員)をもって組織する。

第4条 本会は、会員相互の親睦を厚くし、母校との関係を密にし、母校の発展に寄与することを目的とする。

## 第3章 会員

第5条 本会の会員を分けて、特別会員と正会員とする。

1. 特別会員は、現在および旧教職員。

2. 正会員は、卒業者。

第6条 正会員は、所定の終身会費を納入しなければならない。

第7条 本会会員は、移転・転勤その他身分上に異動を生じた時および会員の死亡を知った時は、速やかに本会に通知しなければならない。

## 第4章 役員および役員会

第8条 本会に次の役員を置く。

1. 会長

2. 副会長 若干名

3. 常任理事会議長

4. 常任理事 若干名

5. 理事 若干名

6. 評議員 若干名

7. 監事 若干名

第9条 役員の選出および任務は次の通りとする。

1. 会長は理事会で選出され、会を代表する。

2. 副会長は、会長が理事中より委嘱し、会長を補佐し、会長が事故あるときはその代理をする。

3. 常任理事会議長は、常任理事中より互選し、常任理事会・理事会を統轄し、その決定事項を発動し、本会の会務一切に責任を持つ。

4. 常任理事は、理事中より互選し、理事会の決定事項を執行し、また本会の事務を時担処理する。

5. 理事は、評議員中より互選し、本会の会務を決定する。

6. 評議員は、正会員中各卒業年度・各学部より所定の選挙方法によって若干名を選出し、会務の協議に当る。

7. 監事は、正会員中より理事会が選出し、本会会計の監査を行う。

第10条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。

第11条 役員会は、必要に応じて次の通りこれを開き、本会の要務を協議する。

1. 常任理事会

2. 理事会

3. 評議員会

## 4. 合同役員会

第12条 本会は、必要に応じ名誉会長・顧問または参与を理事会の推薦により総会の承認を得て置くことができる。名誉会長・顧問・参与は会長の諮問に応じ、本会の重要な権限に参画することができる。

第13条 本会は、理事会の承認を得て支部を設けることができる。

## 第5章 事業

第14条 本会は、第4条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 総会は、毎年1回これを開く。ただし必要あるときは臨事総会を開くことができる。
2. 会報を発行して会員に頒布する。
3. その他本会発展のための事業。

## 第6章 会計

第15条 本会の会計年度は、4月1日より始まり3月末日に終る。

第16条 本会の収支決算は、翌年度の4月末日までに会計監査を行い、理事会の承認を得て総会に報告する。

第17条 本会の資産は、会長が管理する。

第18条 本会の維持運営を目的とする会員および有志の金品寄付は、これを受理する。

## 第7章 附則

第19条 本会に次の帳簿を備える。

1. 会員名簿
2. 会計簿
3. 終身会費徴収原簿
4. 備品原簿
5. 文書綴
6. その他必要な帳簿

第20条 本会評議員選出の方法および細則は別に定める。

第21条 本会は、必要に応じて地方又は職域に支部を置くことができる。支部の設置については第13条による。

第22条 中途退学者も希望により会員の推薦を得て、正会員になることができる。

第23条 この会則は、必要が生じたとき総会出席者の過半数の承認を得て改正変更できる。

第24条 この改正会則は、昭和50年11月21日より発行する。

## —就職している会員各位—

山桜会報号外の業種別調査の票は送って

下さったでしょうか？

まだの会員各位はご協力下さい。

会員名簿で「無職」になりますから！



## 將軍山会主催：第7回海外旅行

## 例年大好評 ハワイでクリスマス！

將軍山会員特別価格（在学生も含む）￥167,000.-

一般参加価格

￥202,000.-

※  
ゴルフコース  
3食付コース

ご希望によりコース新設しました。詳しくはパンフレットをご請求を。

・期間 昭和57年12月23日(木)～12月28日(火) 6日間

・利用予定 航空会社 日本航空 直行ジャンボ・ジェット

・利用予定 ホテル プリンセス・カイウラニ・ホテル (ワイキキ通りの中心・高級ホテル)

将軍山会の会員の皆様にはご清栄の事と存じます。さて、例年好評をいただいております海外旅行「ハワイでクリスマス」を本年も皆様のご要望に応えて催すことになりました。特に今回は、諸物価値上がりの中ではあります、旅行費用を会員の方に限って特別価格でご案内いたします。寒い時期に、常夏のハワイで、しかも本場のクリスマス気分を味わい、会員相互の親睦を深めるのも最適かと存じます。又、参加者全員でのクリスマスパーティーを、浜辺のレストランで楽しんでいただけます。現地のホテルは毎年使用しているだけです。航空会社・旅行社も皆様ご存知の信頼のおけるところでござります。航空会社・旅行社も皆様ご存知の信頼のおけるところでござります。このすばらしい特別企画に、多数の皆様が参加されることを希望しています。なお、不本意ながら、限定人数となっておりますので、ご了承下さい。

## 日 程 表 (op)はオプション

日付	地名	現地時刻	交通機関	摘要
12/23 (木)	大阪 ホノルル	18:30 ↓ 07:30	日本航空 ジャンボ ジェット 特別バス	大阪空港集合の後空路ハワイへ！ (日付変更線通過機中泊) ホノルル着後専用バスにて ホノルル市内観光 全員でフルーツランチ (op)ディナーショー 宿泊 ホテル
12/24 (金)	ホノルル	終日		<終日 自由行動> (op)シーライフ・パーク観光 (op)ゴルフ 夕方全員でクリスマス・パーティー 宿泊 ホテル
12/25 (土)	ホノルル	終日		<終日 自由行動> (op)マウイ島日帰り観光 (op)シーサイド・ゴルフ 宿泊 ホテル
12/26 (日)	ホノルル	終日		<終日 自由行動> (op)オアフ島周遊ドライブ (op)ハワイ島日帰り観光 (op)ゴルフ 宿泊 ホテル
12/27 (月)	ホノルル	12:00	日本航空 直行 ジャンボ	出発まで自由行動 ハワイに別れを告げ空路日本へ！ (日付変更線通過) 宿泊 機中泊
12/28 (火)	大阪	↓ 13:20		大阪空港着後解散 無事我が家へ！

## 参加・お申込方法

- (1) 問い合わせ等、詳しいパンフレットをまとめてご請求下さい。(電話にて可)
 

問い合わせ  
申込先  
パンフレット請求先 } 取扱旅行社  
〒530 大阪市北区梅田1丁目1番3-300  
(大阪駅前第3ビル)  
株式会社 日本旅行  
関西海外旅行センター  
TEL 06 (344) 1891  
将軍山会担当: 竹中 肇
  - (2) 詳しいパンフレットに参加申込用紙が付いていますので、上記に送付願います。
  - (3) 定員30名(限定人員ですので、定員に達し次第締め切ります。)
  - (4) ベテラン添乗員が同行して、クリスマスパーティー等のお手伝いをいたします。  
特別コースを希望の方に(金額等、詳しく述べるパンフレットをご請求下さい)
- (1) 上記金額は食事は含まれておりませんが、3食付コースご希望の方は、追加金額でもご案内しています。
  - (2) ゴルフ・コースの希望が大変多いので、現地での手配をいたします。

10月31日(日)は母校の将軍山祭へ！ 午後2時には学生会館へ！